

# 第3回検討会議での議論を踏まえた論点について

---

令和2年12月

内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）



※赤字部分：特に第4回で対応している観点

第3回検討会議での主なご意見	対応の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>● モデルカリキュラム（案）で示されたカリキュラムを全て履修すると8単位程度のボリュームになると思われる。特に情報系の学部など<u>専門課程以外の学生にとっては過剰なボリューム</u>なのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <u>「応用基礎レベル」のスコープについて、これまでご議論いただいた内容を踏まえて合意</u>する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● モデルカリキュラム（案）は、必要事項の積み上げ型として検討されているが、<u>認定制度では社会の需要や要請を踏まえ、必要な教育を逆算して定義すればよい</u>のではないか。この場合、必ずしも<u>カリキュラム内の教科全てを学ぶ必要はない</u>のではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 応用基礎レベルに到達するために必要な教育（<u>=応用基礎コア</u>）を<u>主な育成対象とする人材像やモデルカリキュラムと関連付ける形で定義</u>する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ある方向性と枠組みの中で、各大学各分野別に、<u>何を教えるか、どこに向かうかが、モデルカリキュラムと関連づけて示され、取捨選択された形</u>になるのが良いのではないか。その上で<u>何を認定の条件とするか議論すべき</u>ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 応用基礎コアの検討にあたっては、<u>社会（特に人材の主な輩出先である産業界）の需要や要請も取り入れる</u>ことで、認定を受けた教育プログラムが学生や産業界にとってインセンティブとして働くことを促す。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● AIやコンピュータの力を利用して問題解決に取り組む世界的な潮流から日本が乗り遅れてはいけない。アナリティクス的な要素の「数理」「データサイエンス」も重要だが、<u>プログラミング、データ構造、アルゴリズムを柱とするカリキュラム</u>が重要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 教育プログラムを認定する立場として、応用基礎コアを満たす<u>教育プログラムの要件とモデルカリキュラムとの関係性について整理</u>する。</li> <li>➤ 何を認定の条件とするか方針を定める</li> </ul>